

- 1 筆者の小学校高学年の頃と言えば、学校が引けると日暮れまで外で遊びほう
けるのが常だった。喧嘩ゴマ・パッチン（筆者と同郷の人以外は分からないか
もしれないが、「メンコ」のようなもの）・ビー玉等々、屋外での遊びには事
欠かなかったが、都合良く人が集まれば野球をやった。当時の子供は必ず自分
のグローブを持っていて、ちょっとしたスペースでキャッチボールをやったも
のだ。二人いればやれるキャッチボールは、遊びの王道だった。
- 7 当初の筆者は、他の多くの人々と同様、司法によるキャッチボール禁止令・
屋内遊戯のすすめという批判の目でこの判決を見ていた。だが、私は今ではそ
の本質が心臓震盪対策が極めて不備である日本社会への警鐘にほかならなかつ
たと理解している。救命処置の講習などを通じて心臓震盪について全ての国民
が十分に理解し、更なるPADの設置へとつながって欲しいものだ。そして、
子供たちが真に安全に外で遊べる環境が整うことを切に願っている。
- 13 さて、雪である。大きさや水分の多少、降る状況で様々に呼称される。経験
に基づいた私なりの雪の心象風景を描写してみよう。私の故郷の福岡では「ぼ
たん雪」という雪が降る。一片が3cmほどもあろうかという大きな雪がゆっ
くり空から地上へ近づいてくる感じだ。積もることは少なく、降ると道がべ
ちゃべちゃになってあまり綺麗なものではない。高校時代を過ごした横須賀で
は、少し小さめの「綿雪」が降る。横須賀の冬は風が強く、駅のホームのよう
な吹きさらしの場所だと、耳がちぎれそうなくらい痛くなったものだ。
- 20 地震は自然現象ですが、脆い建物が崩れたり救援の手が届かなかったりする
ことによってその災害は拡大するのです。たとえば干ばつは、社会の不平等や
政府の失策により、都市や軍隊には食物が確保される一方で農村の貧しい人々
に食物が行き届かなくなることで、飢えという災害へと拡大します。干ばつの
ため食糧不足にさらされる人たちに食料や雇用を供給する政策が、民主主義の
原則で実行され、きちんと機能する場合、飢えは発生しません。

- 1 実際は、平成十六年七月一日、医療機器であるAEDの市民による使用が法的
2 に認められた。その半年後に、例の判決が出たのだ。その後、日本心臓財団の
3 AEDの普及啓発活動が本格的に始動することになる。AEDのうち、特に一
4 般人が使用できる仕様のものをPADというが、このPADの年別普及状況の
5 推移を見ると、ちょうど平成十八年から普及に拍車がかかっている。その後は
6 商業施設・スポーツ施設・教育施設・公共施設などを中心に確実に増え続け、
7 平成二十三年現在、日本全国で約三十万台のPADが設置されている。
- 8 一方、昨年の年末ジャンボ宝くじで、折角当せんしたにもかかわらず、いま
9 だに引き換えられていない当せん金が三十億円以上もある。換金期限は来年の
10 一月四日だ。彼らは、一生に一度あるかの幸運をふいにし、いつも通りの一年
11 を、いい年だろうと例年同様に期待しながら今年の正月を迎えたに違いない。
12 こちらの方は何とも「お目出度い」。後で知ることにもなれば、悔むに悔み
13 切れない。知らないのなら、一生知らないままでいて欲しいものだ。
- 14 源氏物語から始まり、江戸の軟らかな物は元より、中国の小説の類までも知
15 っているのです。昼の休みなどに、運動場の隅にこの友人を真中に、小さな
16 輪をつくって耳を傾けていた私たちの若い顔のほてりや、心の動きを回想する
17 事ができます。古典文学を誤解なく説明して聞かされた事を覚えています。こ
18 うした先輩を持った私の読書欲が、増さない訳はありません。乱読の傾向は、
19 益々激しくなっていくばかりでした。
- 20 日本文学史の歴史区分を行うと、歴史学のように政体の変遷に注目すること
21 が必ずしも相応しいとはいえない。明治維新後、西欧文明の輸入と近代国家の
22 建設が進められ、いわゆる「文学」という概念が生まれた時代となる。そして
23 西欧近代小説の理念が輸入され、現代的な日本語の書き言葉が生み出された。
24 したがって、近代と現代を分離し、一般的に戦前の文学を「近代文学」、戦後
25 の文学を「現代文学」として分ける場合がある。